

■「効果の見える治水事業」

愛媛県 尻無川の総合流域防災事業（新居浜市）

『尻無川総合流域防災工事の進捗状況』

たかはし ちかとし

愛媛県東予地方局建設部長 高橋 近敏



■事業の概要

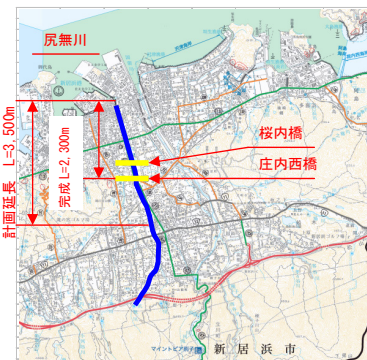
尻無川は、新居浜市大永山、辻ヶ森（標高 957.9m）に源を発し、新居浜市の中心市街地を貫流している、流路延長 6.8km、流域面積 8.9km²の二級河川です。

本河川は、四国山地から一挙に平野部に流れ出している典型的な扇状地河川であり、下流の市街地でも河床勾配が約 1/150 と全川において極めて急勾配であるため流速が速く、中・下流域では河積が狭小であるため溢水氾濫が度々発生してきました。

近年では、平成 16 年の相次ぐ台風来襲があり、特に平成 16 年 9 月 28 日から 29 日の台風 21 号では、本河川中流域において道路橋（市道橋等）が相次いで落橋及び流失し、さらに、流木による流下断面阻害に伴う溢水により、市内中心部一帯の住宅地は甚大な被害を受けました。

県では、昭和 50 年度の事業採択以降、本事業を推進し、通水断面の拡大及び道路橋等河川占用物架替えによる流下断面阻害の解消を進めており、この結果、下流から L=2, 300m の間において治水安全度の向上を発現することができました。今後とも、河積が狭小である残計画区間（L=1, 200m）の改修を、道路橋管理者等関係機関と連携のうえ事業を推進し、浸水被害の軽減を図ることとしています。

『位置図』



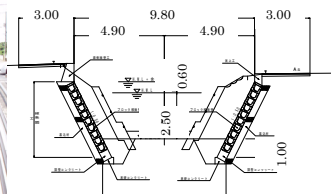
事業概要
施工位置：新居浜市菊本町～新居浜市松木町
事業期間：S50～H26
計画延長：L=3,500m（うちL=2,300m完成）
護岸工：L=5,020m
道路橋架替 N=15橋
※H16～H20完成道路橋 桜内橋（H19）、庄内西橋（H19）

『整備状況』



桜内橋 新居浜市久保田町（H20.6）

『標準断面図』



『増水状況』



庄内西橋 新居浜市高木町（H16.9）

『整備状況』



庄内西橋 新居浜市高木町（H20.6）



新居浜市高木町（H20.6）

「河川整備に合わせたソフト事業の推進」

ささき りゅう

新居浜市長 佐々木 龍



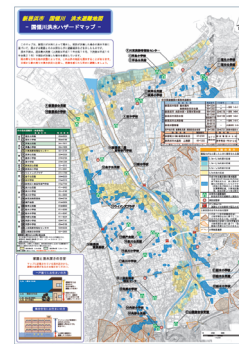
新居浜市は、愛媛県の東部に位置し、縫灘に面した細長い平野部と、東西に丘陵地、中央構造線を境にして南は山地となっています。気候は温和で、市の東部の多喜浜地区には塩田があったように降水量の少ない地域です。

市の南部の山地からは、国領川をはじめ中小の河川が瀬戸内海に流れ込んでおり、尻無川もその一つです。平成 16 年には、これらの中小河川が、上流部の土石流や山腹の崩壊により流れ出た土砂や流木で埋まり、流れを変えて家や田畑を埋めました。また、流木が河川の暗渠や橋脚に詰まり、ダムのように河川をあふれさせ、尻無川では、溢水により市街地に大きな浸水被害をもたらしました。

尻無川は、被災後、橋の架け替え、堤防護岸の改修、河床の掘削などの対策をはかっていただき、今後の浸水被害の軽減に向けて取り組んでいただいております。

防災対策は、ハード対策とソフト対策のバランスのとれた事業の推進が大切であると考えております。新居浜市では、ソフト面の取組として、平成 19 年度に国、県の総合流域防災事業の補助を受け、水位周知河川である国領川の「洪水ハザードマップ」を作成し、市内の全世帯に配布いたしました。合わせて、自治会や学校、公民館単位に、出前講座を実施し、災害に備えての対策や、浸水時に避難行動がスムーズに行えるような啓発に取り組んでいます。また、災害時に一人では避難できない方を支援するため、「災害時要援護者避難支援プラン」の作成に取り組んでおり、平成 20 年度から 22 年度の 3 年をかけて市内の小中学校区単位で、順次アンケート調査を行います。その後、地域の民生児童委員や自主防災組織の協力を得て、要援護者 1 人につき 2 人の地域支援者をあらかじめ決めていただき、災害時には、避難情報の伝達や避難誘導をお願いしようとするものです。

今後とも、国、県をはじめとする関係機関、そして市民一人ひとりと連携しながら防災対策を進めてまいりたいと考えています。



国領川洪水ハザードマップ



ハザードマップを利用したの
防災出前講座（新居浜北中学校）

災害時要援護者避難支援プラン
作成のためのアンケートと登録台帳